



2010年(平成22年)10月期

第2四半期決算説明会資料

株式会社オービス

代表取締役社長 おこし いわお 御輿 岩男

(大阪証券取引所(ジャスダック市場)、証券コード:7827)

2010年6月23日

●目次

PART1 会社の概要	3
●プロフィール	4
●経営理念・沿革	5
PART2 事業の特長(強み)	6
●木材事業のビジネスフロー	7
●木材事業の特長	8
PART3 2010年10月期第2四半期の連結業績	11
1. 四半期連結損益計算書	12
2. 売上高・四半期純損失の増減要因	13
3. 事業の種類別セグメント業績	
●木材事業	14
●ハウス事業	15
●アミューズメント事業	16
●不動産事業	17
4. 四半期連結貸借対照表及び四半期連結 キャッシュ・フロー計算書	18

PART4 市場環境と取組みの進捗状況	19
●木材事業の市場環境 ①	20
●木材事業の市場環境 ②	21
●木材事業の市場環境 ③	22
●木材事業:取組みの進捗状況	23
●ハウス事業の市場環境	24
●ハウス事業:取組みの進捗状況	25
●アミューズメント事業の市場環境	26
●アミューズメント事業:取組みの進捗状況	27

PART5 2010年10月期の業績予想	28
1. 連結業績予想(通期)	29
2. 予想配当	30
●本資料お取扱上のご注意	31
●IR担当窓口	32

PART1

会社の概要



ニュージーランドの松林(写真提供:住友林業株式会社)

ニュージーランド松製材の国内最大手

当社グループは、木材、ハウス、アミューズメント、不動産の4つの事業を基盤にビジネスを展開しております。特に主力の木材事業では、ニュージーランド松(ラジアータパイン)製材の国内最大手の評価を頂いております。

会社名	株式会社オービス
設立	昭和34年11月
代表取締役社長	御輿 岩男(おこし いわお)
資本金	6億8,498万円
従業員数	240人(2010年4月末現在)
連結売上高	80億円(2009年10月期末)
事業内容	梱包用材等の製造、販売、プレハブハウスの製造、販売、仮設建物等のリース、一般建築の請負、太陽光発電パネル等の施工・販売、カラオケハウス及びゴルフ場の運営、不動産の賃貸及び売買
本社	〒729-0105 広島県福山市南松永町四丁目1番48号
連結子会社	株式会社パル TUI MARITIME S.A. (パナマ)

●社名の由来●



当社社名の「オービス(ORVIS)」とは、ラテン語で「創設者・出発点」という意味を持つ「origao」と、「パワー・効力」という意味の「vis」を組み合わせた造語です。みなぎる活力で未来を創造していきたいという企業テーマを象徴しております。

経営理念

顧客満足・社員満足

当社グループの経営理念「顧客満足・社員満足」は、「お客様が満足して使用できるものを生産・提供することにより社会に貢献し、それにより社員の生活の向上を図り、株主の皆様利益を還元していく」という意味をあらわしております。

■ 当社グループの主要な沿革

昭和34年11月	有限会社中浜材木店を設立	平成元年10月	広島市安佐北区にカラオケハウス1号店を開店
昭和37年 5月	広島県世羅郡世羅西町(現世羅町)に製材工場を建設	平成 4年 4月	株式会社オービスに商号変更
昭和43年 3月	ニュージーランド松の製材工場建設 同時にプレハブ部材の生産開始	平成14年 8月	木材運搬船「グリーンホープ」(最大積載量35,000トン)完成、航海開始
昭和46年 6月	広島県福山市に製材工場移転 同時にプレハブハウスの完成品を販売開始	平成14年11月	中須ゴルフ倶楽部の営業譲渡を受け、営業開始
昭和49年 9月	有限会社中浜材木店を組織変更し、中浜木材株式会社を設立	平成15年 5月	広島県福山市に賃貸マンションを取得し、不動産賃貸開始
昭和62年12月	広島市西区に賃貸ビルを建設し、不動産賃貸開始	平成18年9月	ジャスダック証券取引所に上場
平成元年 4月	カラオケハウスの製造販売開始	平成20年8月	木材事業姫路工場稼働開始
		平成22年2月	太陽光発電パネル等の施工・販売の開始

PART2

事業の特長(強み)



●木材事業のビジネスフロー

仕入・船積

ニュージーランド産ラジアータ松の原木を現地輸出業者から直接仕入



特徴①

海上輸送

専用運搬船「グリーンホープ」で日本まで安定・低コスト輸送



港からの搬入

原木を港湾地域にある当社本社工場及び姫路工場の2ヶ所へ搬入



特徴②

大量製材

独自の大型機械化製造ラインで大量・低コスト製材



出荷

製品を顧客及びユーザーへ直送



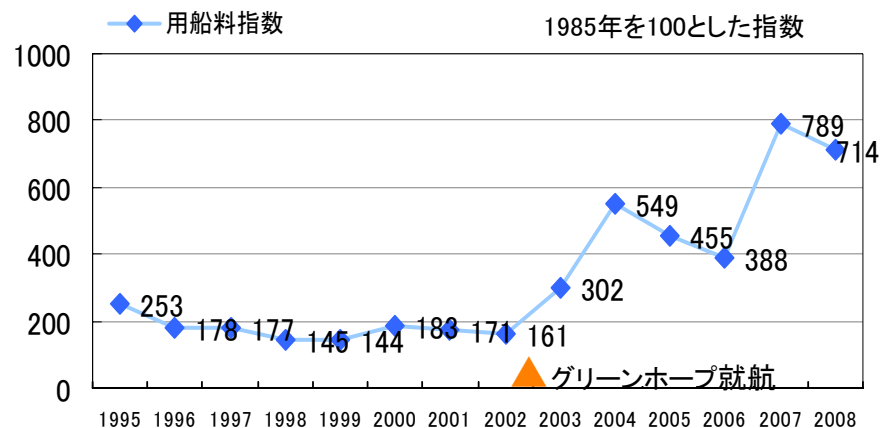
● 木材事業の特長① 専用木材運搬船「グリーンホープ」

■ 安定した輸送コストを実現



- 専用木材運搬船「グリーンホープ」(最大積載量35,000トン)を保有
- 日本とニュージーランドの間を年間9往復し、原木を海上輸送
- 安定的な輸送手段と輸送コストを確保＝国際用船料相場の高騰に影響されない

■ ロイズ SHIPPINGエコノミストによる
不定期船定期用船料指数 (2万トン以上3万5千トン未満クラス)



■ バルチック海運指数 (ロンドン海運取引所算出)



● 木材事業の特長② 最新の「3Dスキャンシステム」と製材ライン

■ 立体解析されたデータにより自動製材



- 独自の「3Dスキャンシステム」を新工場に設置
- 木材をコンピュータで立体的に解析、最適な木材の切り出し図を自動判定
- 解析データによりすべての機械をコントロールし、自動的に製材を行う。

当社独自の「3Dスキャンシステム」

●木材事業の特長③ 製品の特徴

■ラジアータ松の強み

- 植林木のため資源量が豊富で安価⇒恒久的に安定供給できる
- 柔軟性に富み加工性に優れる ⇒梱包用材に最適
- 原木の直径が大きく、幅広い製品が取れる
- 計画植林のため環境負荷をかけない

■価格競争力

- 直接仕入、自社船による安定的低コスト輸送、大量製材、直接販売等により、ローコストオペレーションが確立されており、価格競争力がある

■国内挽製材による多品種、大量、速納性

- 国内の2ヶ所の工場で製材をしているため、多様な顧客ニーズに合わせたきめ細かい製材明細を大量に対応することが可能
- 海外で製材する輸入製材品は、通常3ヶ月前から注文を確定しなければならない。当社は1週間程度で納品できるため速納性にすぐれている

●当社ブランドイメージ「安く、早く、大量に安定供給できる」

PART3

2010年10月期第2四半期の連結業績

1. 四半期連結損益計算書

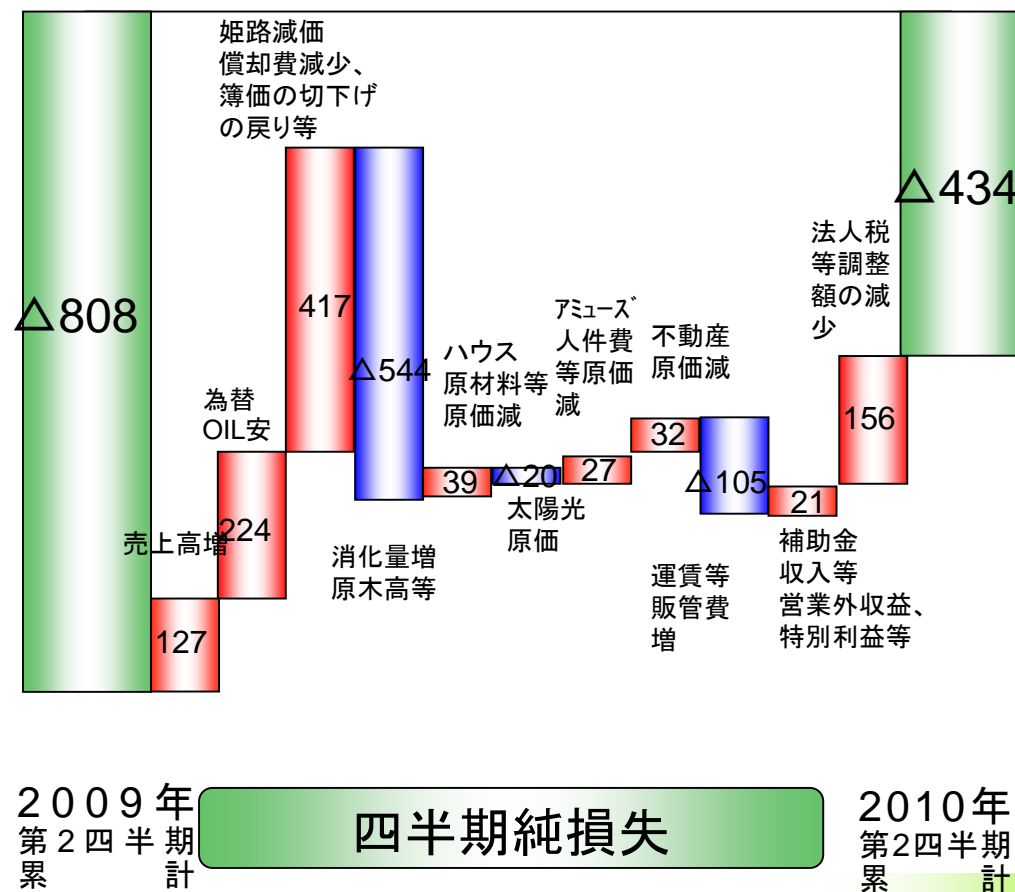
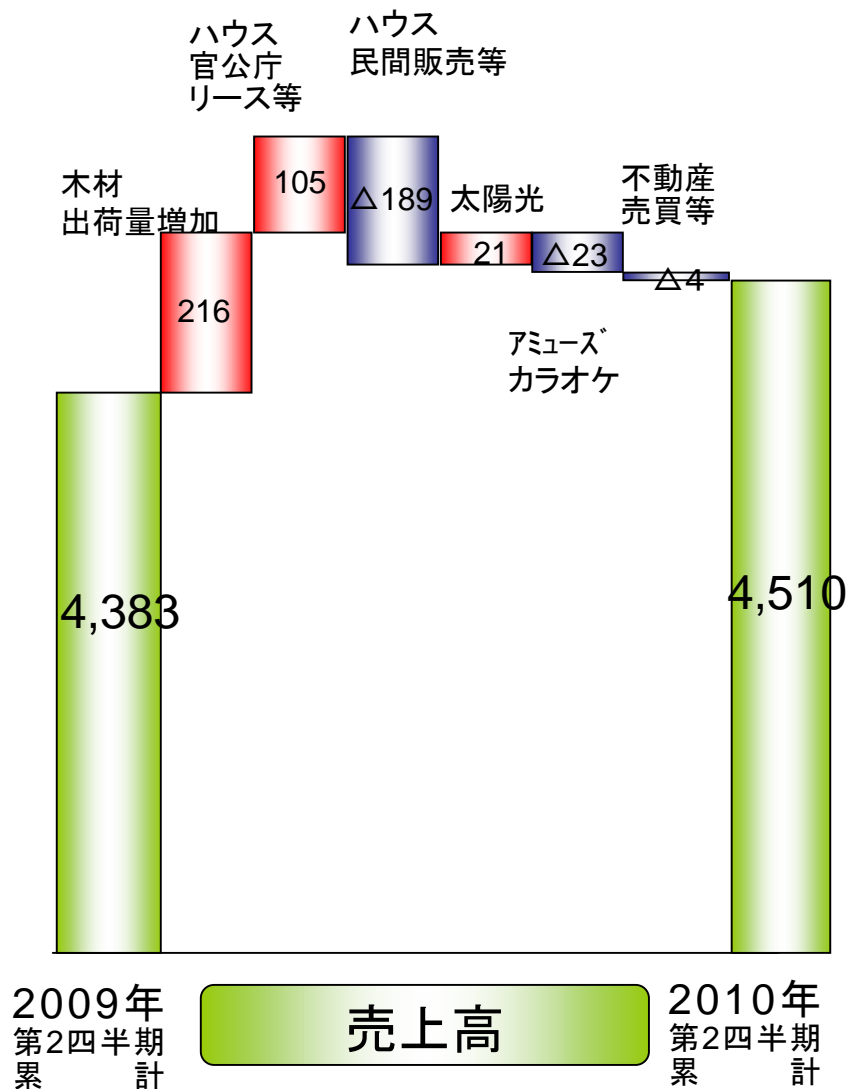
(単位:百万円)

	2009年 第2四半期 累計実績	百分比	2010年 第2四半期累計 業績予想 (5月21日公表分)	2010年 第2四半期 累計実績	百分比	前年 同期比	業績 予想比
売上高	4,383	100.0%	4,510	4,510	100.0%	102.9%	100.0%
売上総利益	29	0.7%	331	331	7.4%	1,132.8%	100.0%
販売費及び 一般管理費	606	13.8%	711	711	15.8%	117.4%	100.0%
営業損失(△)	△576	—	△379	△379	—	—	100.0%
経常損失(△)	△639	—	△436	△436	—	—	100.0%
四半期純損失(△)	△808	—	△434	△434	—	—	100.0%
1株当たり四半期純損失(△)	△466.99円	—	△250.85円	△250.85円	—	—	100.0%

●輸出等の増加により出荷量は前年同期比で25.2%増加したものの、販売単価の回復の遅れと原木高により収益を押し下げ、営業損失を計上。

2. 売上高・四半期純損失の増減要因

(単位:百万円)

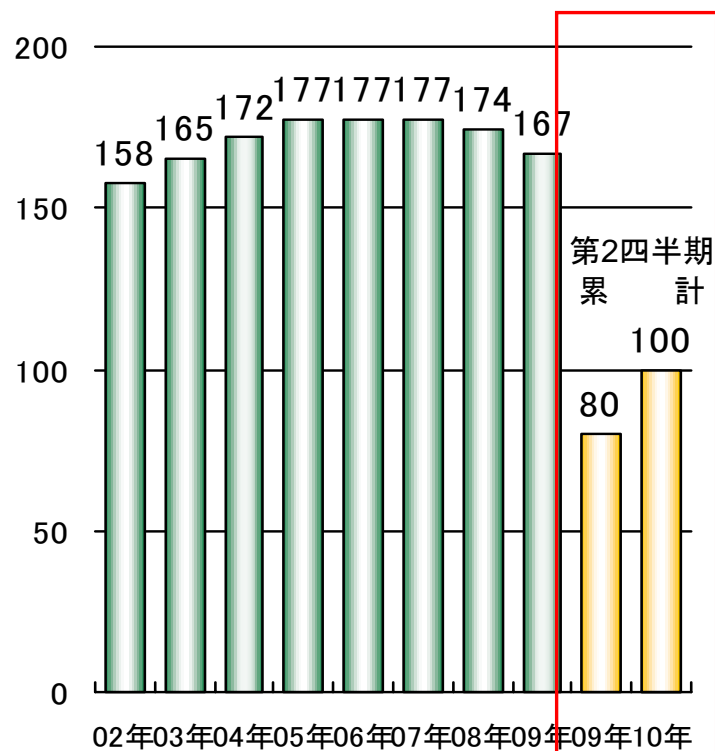


3. 事業の種類別セグメント業績 ● 木材事業

- 出荷量 前年同期比25.2%増加
- 販売価格の回復が遅れる（当四半期末価格は、前期末比21.6%上昇するも当四半期累計平均価格は、前年同累計平均価格の83.8%にとどまる。）
- 原木FOB価格が高騰（09年7月入港V57番船と10年3月入港V62番船の比較で65.7%上昇）

■ 当社出荷量の推移

(単位:千m³)



■ 木材事業の業績

(単位:百万円)

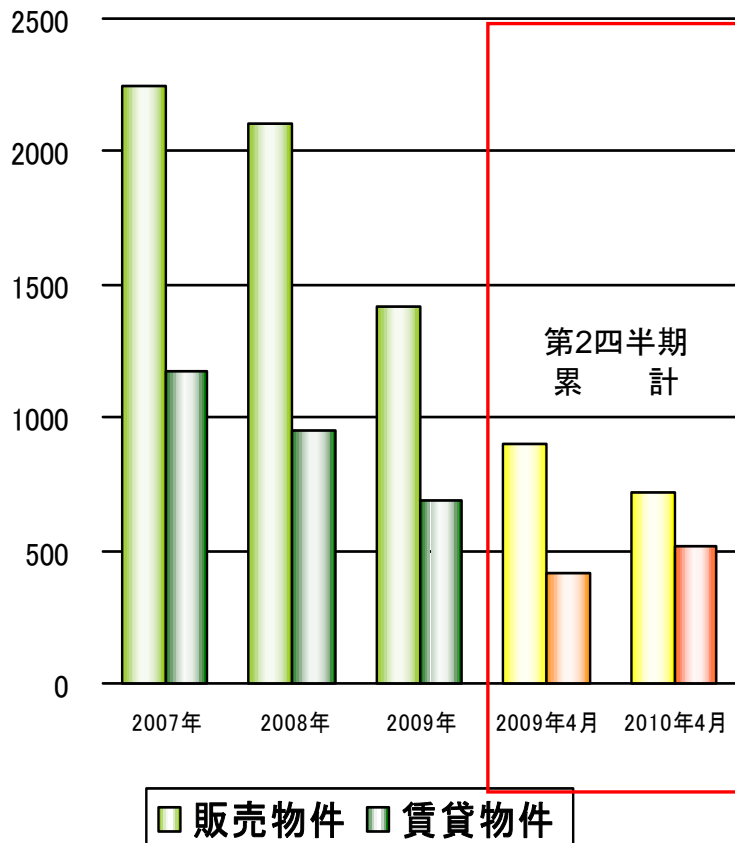
	2009年 第2四半期 累計実績	百分比	2010年 第2四半期 累計実績	百分比	前年 同期比
売上高	2,532	100.0%	2,748	100.0%	108.5%
営業費用	3,062	120.9%	3,061	111.4%	100.0%
営業損失(△)	△530	—	△313	—	—
平均為替 レート(円)	101.90	—	91.06	—	89.4%

● ハウス事業

- 官公庁等の賃貸物件が完工し、賃貸物件は前年同期比で25.7%増加するも、利益率が低く民需による販売物件も落ち込み、減収、減益。
- 賃貸物件の利益率の低下と太陽光発電の初期費用(28百万円)により営業損失を計上。

■ 販売物件、賃貸物件売上の推移

(百万円)



■ ハウス事業の業績

(単位:百万円)

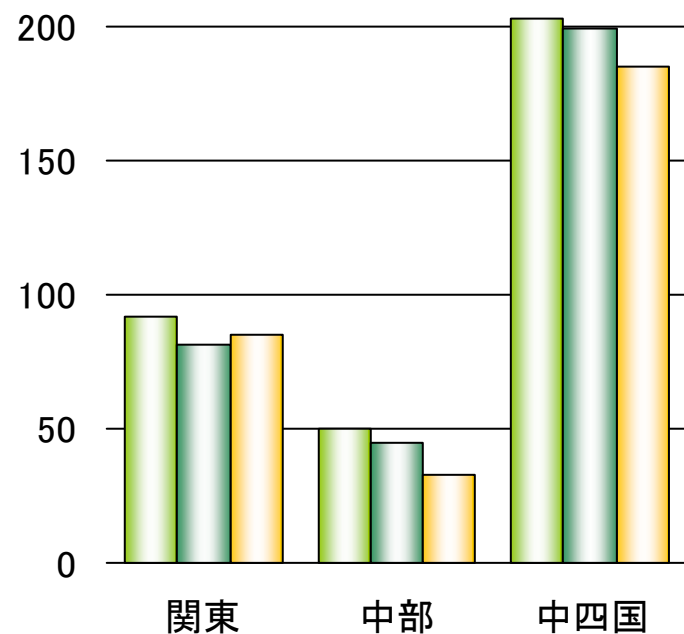
	2009年 第2四半期 累計実績	百分比	2010年 第2四半期 累計実績	百分比	前年 同期比
売上高	1,314	100.0%	1,253	100.0%	95.4%
営業費用	1,284	97.7%	1,281	102.3%	99.8%
営業利益又は 営業損失(△)	29	2.3%	△28	—	—

2010年第2四半期累計実績 売上高には内部取引2,030千円を含んでおります。

● アミューズメント事業

- 景気悪化の深刻化により消費意欲が減退し、売上高は減少。
- 飲食仕入や人件費等コストの見直しを行い、営業利益は増加。

■ カラオケ店舗地域別売上高の推移
(百万円)



■ 2008年2nd ■ 2009年2nd ■ 2010年2nd

■ アミューズメント事業の業績

(単位:百万円)

	2009年 第2四半期 累計実績	百分比	2010年 第2四半期 累計実績	百分比	前年 同期比
売上高	484	100.0%	461	100.0%	95.3%
営業費用	448	92.5%	420	91.0%	93.8%
営業利益	36	7.5%	41	9.0%	113.7%

● 不動産事業

- 賃貸マンションは増収、売買物件実績(1件)の販売金額の差(△11百万円)により売上高が微減。
- 棚卸資産の簿価の切下げ額に大幅な変更なく、営業利益を計上。

■ 不動産事業の業績

(単位:百万円)

	2009年 第2四半期 累計実績	百分比	2010年 第2四半期 累計実績	百分比	前年 同期比
売上高	53	100.0%	49	100.0%	93.2%
営業費用	59	111.0%	28	58.4%	49.0%
営業利益又は 営業損失(△)	△5	—	20	—	—

4. 四半期連結貸借対照表及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書

■ 要約四半期連結貸借対照表

(百万円)	2009年 第2四半期末	構成比	2010年 第2四半期末	構成比	増減	主な要因
流動資産	5,686	43.3%	5,353	45.1%	△333	現金及び預金、棚卸資産の減少、売上債権、前渡金等の増加
固定資産	7,432	56.7%	6,527	54.9%	△905	姫路工場の機械装置、リース用建物等の償却等による減少
資産合計	13,119	100.0%	11,880	100.0%	△1,239	
流動負債	3,517	26.8%	4,202	35.4%	684	短期借入金、1年内返済長期借入金、仕入債務等の増加、未払金等の減少
固定負債	6,860	52.3%	6,134	51.6%	△725	長期借入金の減少
負債合計	10,378	79.1%	10,336	87.0%	△41	
純資産	2,741	20.9%	1,543	13.0%	△1,197	利益剰余金の減少
負債及び純資産合計	13,119	100.0%	11,880	100.0%	△1,239	

■ 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)	2009年 第2四半期	2010年 第2四半期	主な増減要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	430	△592	減価償却費の減少、売上債権、仕入債務及び前渡金の増加
投資活動によるキャッシュ・フロー	△429	△102	有形固定資産の取得による支出の減少
財務活動によるキャッシュ・フロー	512	155	短期借入金の増加、長期借入による収入の減少
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,166	828	

自己資本比率

20.9% 13.0%

有利子負債比率

63.3% 70.0%

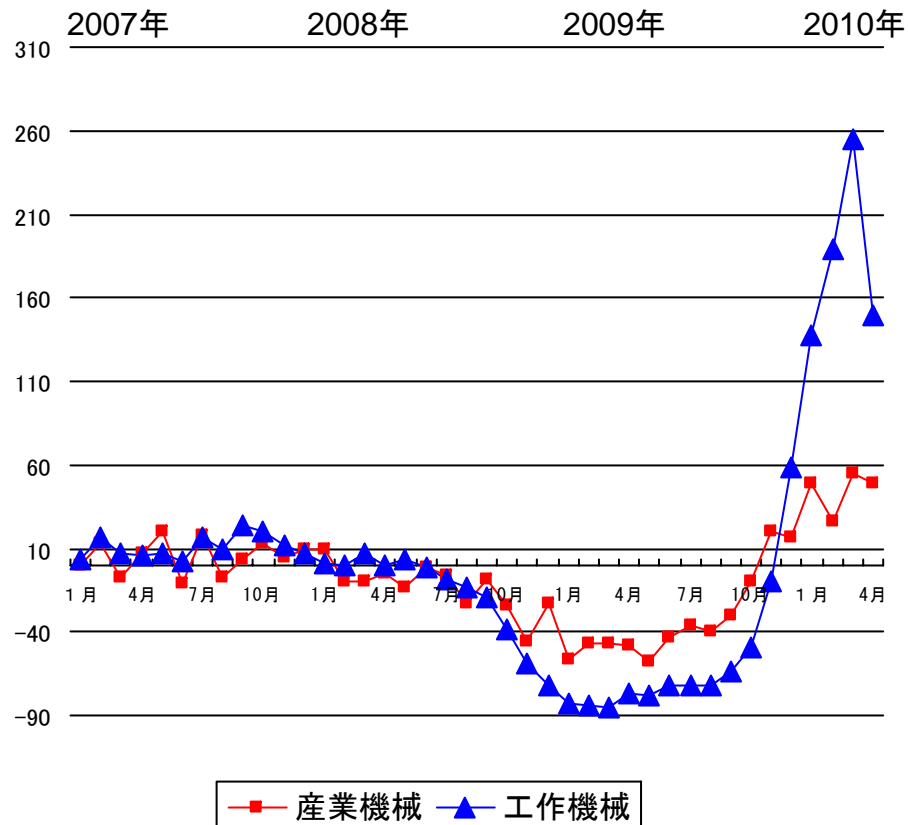
PART4

市場環境と取組みの進捗状況

● 木材事業の市場環境 ①～梱包用材のエンドユーザーの環境

■ 産業機械及び工作機械の受注状況

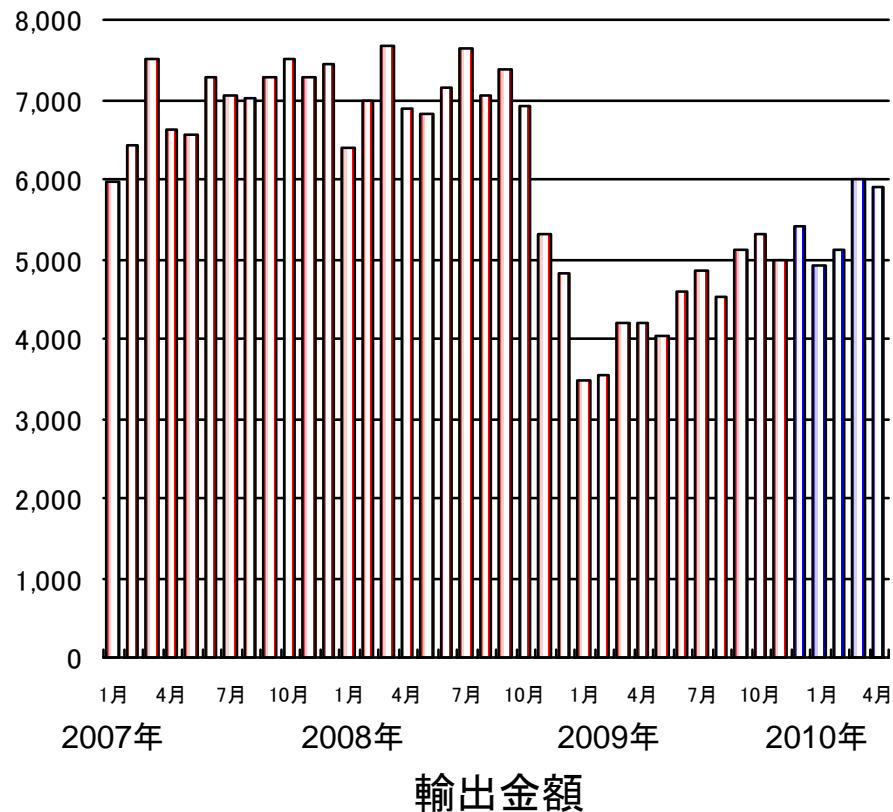
内閣府経済社会総合研究所 機械受注統計調査
前年同月比 (%)



■ 輸出の状況

財務省 貿易統計

(十億円)

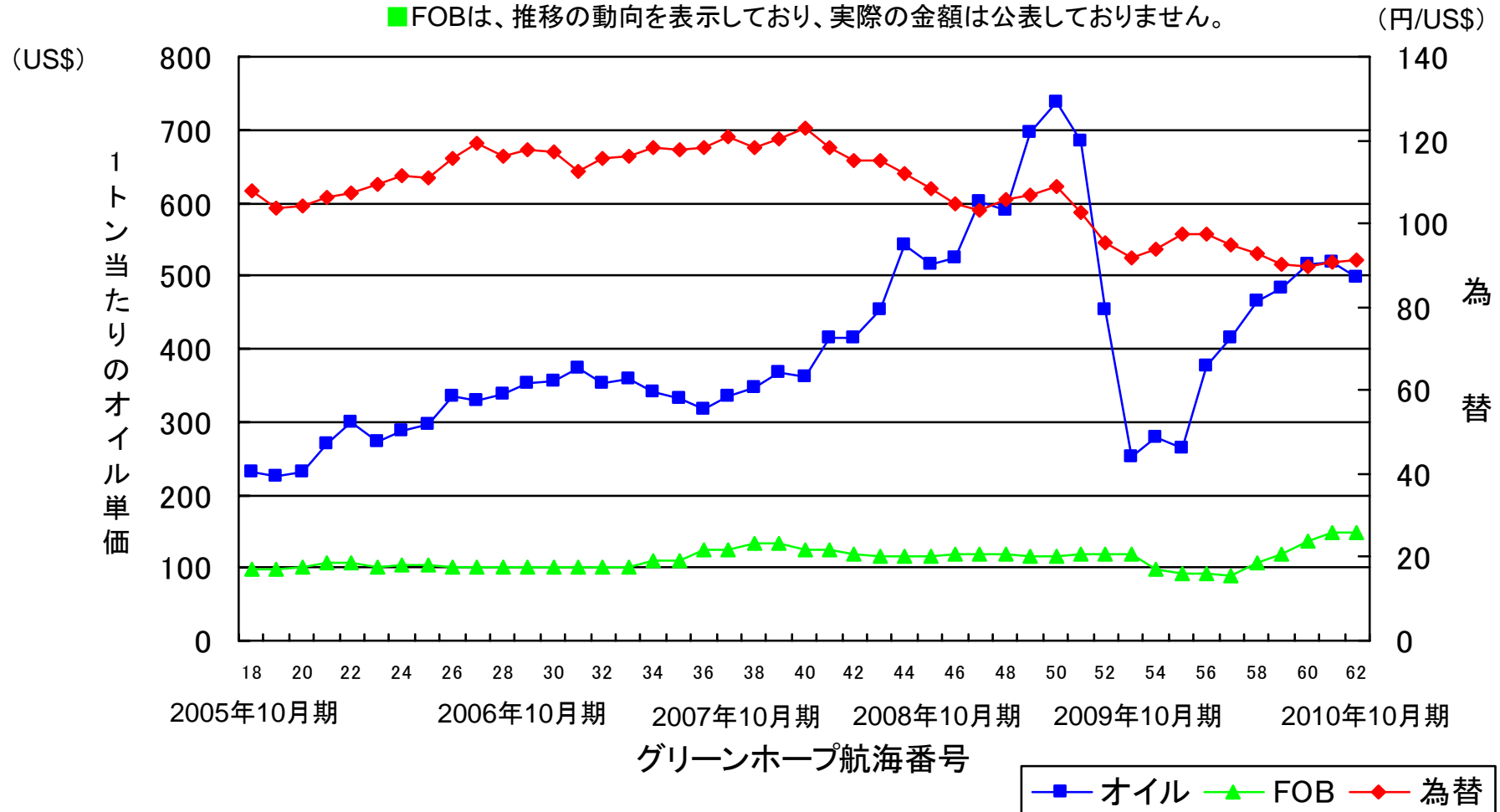


● 産業機械・工作機械等の受注は、回復傾向。輸出は09年12月より5ヶ月連続前年同月比を上回る。

● 木材事業の市場環境 ②～原材料仕入コストの環境

■ 為替・オイル・FOBの推移

■ オイルは自社船の各航海毎の1トン当たりの単価をUS\$で表示しております。(左軸)
 ■ 為替は、各航海の平均為替レートを表示しております。(右軸)
 ■ FOBは、推移の動向を表示しており、実際の金額は公表しておりません。



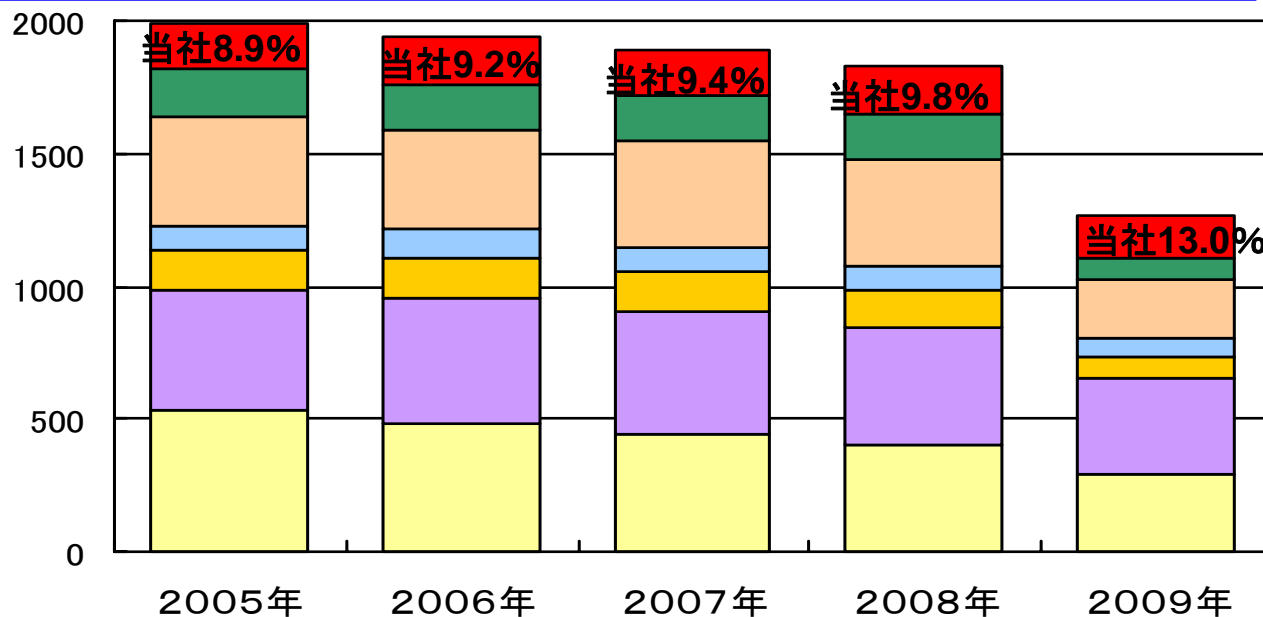
● オイルは反発で上昇、為替は円高傾向。FOBは急騰。

※FOBとは、原木を船に積み込んで引き渡すまでの価格のことをいいます。

● 木材事業の市場環境 ③～市場シェアの動向

■ 木材梱包用材の全体の出荷量と当社の比率 単位：千㎡

全体の出荷量	1,994	1,940	1,893	1,828	1,284
--------	-------	-------	-------	-------	-------



■ その他の地域	■ 北海道
■ 高知県	■ 広島県
■ チリ輸入製材品	■ ニュージーランド輸入製材品
■ 当社	

※ニュージーランド輸入製材品、チリ輸入製材品は、財務省輸入統計の通関量を表示しております。
 ※輸入製材品以外の出荷量は、農林水産省木材統計の用途別製材品出荷量の「木箱仕組板・梱包用材」を表示しております

■ 販売先数の推移

2007年11月
393社

↓ 15%UP

2008年4月
453社

↓ 20%UP

2009年4月
547社

↓ 25%UP

2010年4月
686社

● 木材事業：取組みの進捗状況

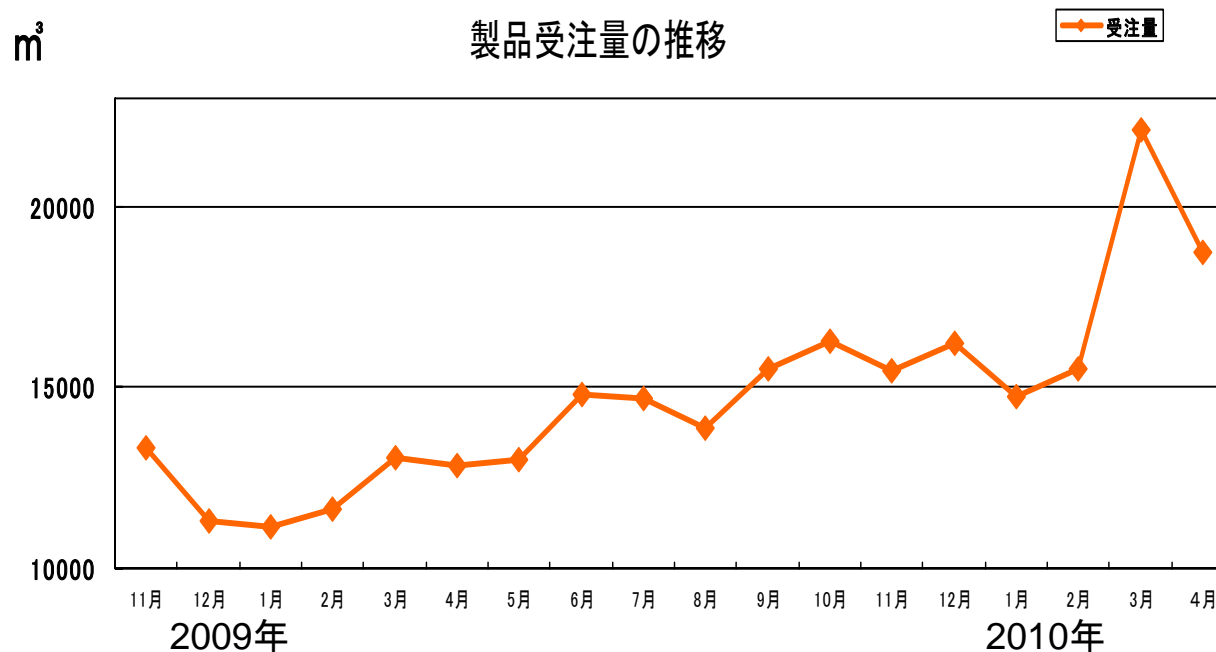
■ 出荷量 10万m³（前同期比125.2%）

■ 販売価格の適正価格への引上げ

当4月末価格は前期末比121.6%、前年同月比108.0%と上昇しているものの
当第2四半期累計期間平均価格は、前同期間平均価格の83.8%にとどまる。

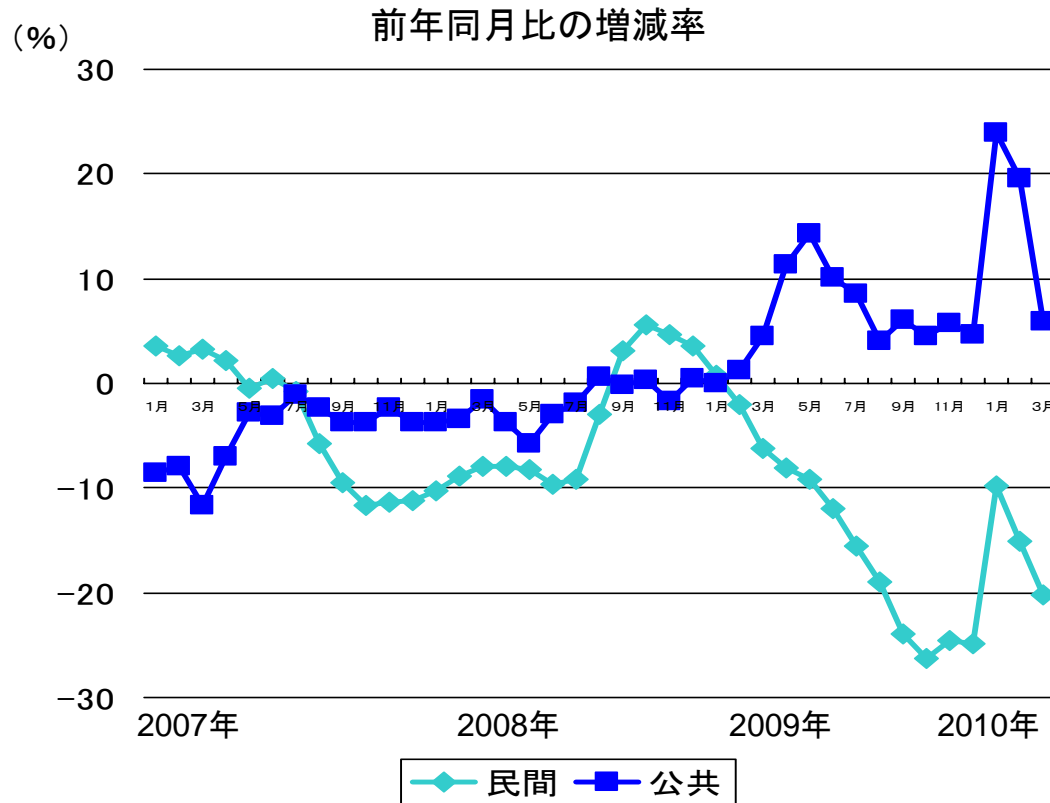
■ 姫路工場の稼働率を高める。

4月稼働率73.9%、原木消化量は前第2四半期累計期間比で274.8%に増加

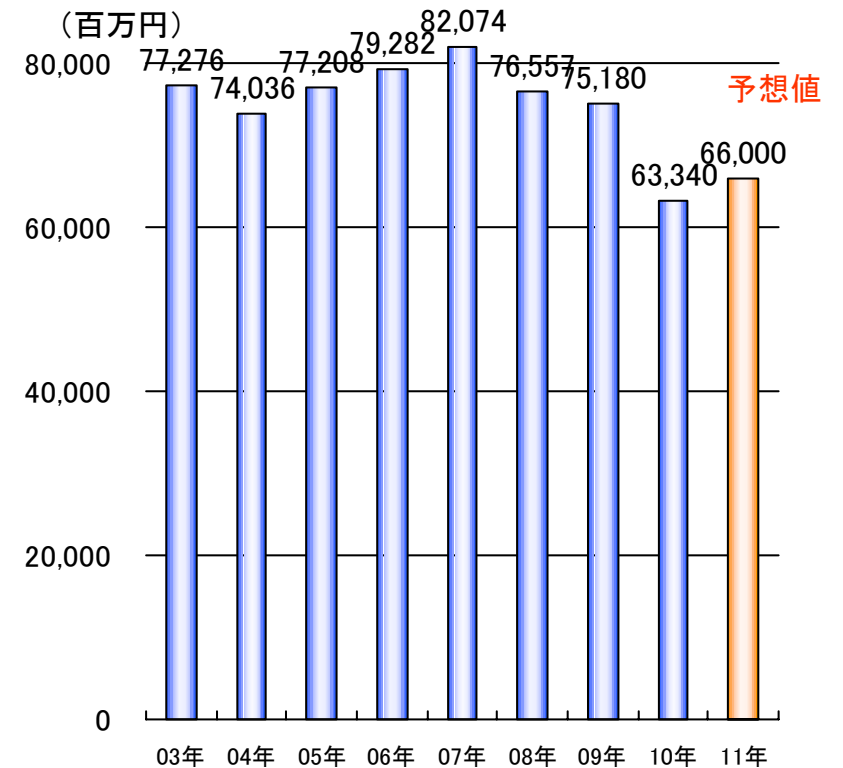


● ハウス事業の市場環境

■ 建設総合統計(出来高ベース) 国土交通省



■ プレハブ業界大手4社の売上高推移



● 公共工事は弱含みとなり、民需による工事は下げ止まらず。

● プレハブ大手4社の2010年3月期は大きく減収。

(注) 上場しているプレハブ大手4社(日成ビルド工業、東海リース、三協フロンティア、ナガワ)の決算短信をもとに、売上高の合計を掲載しております。

●ハウス事業：取組みの進捗状況

■営業力の強化、契約高の確保

(単位：百万円)

- 新規開拓件数
前年同累計期間比 15.4%増加
- 契約高
2010年第2四半期は前年を上回る。

契約高	第1四半期	第2四半期	累計合計
2009年	543	456	1,000
2010年	425	462	887
増減率	78.2%	101.3%	88.7%

■在庫の圧縮

- 賃貸用資産 減価償却以外で△21百万円(前期末比6%減)
- 工場在庫 △24百万円(前期末比22%減)
※ホームページで中古部材の販売を掲載し広く告知。

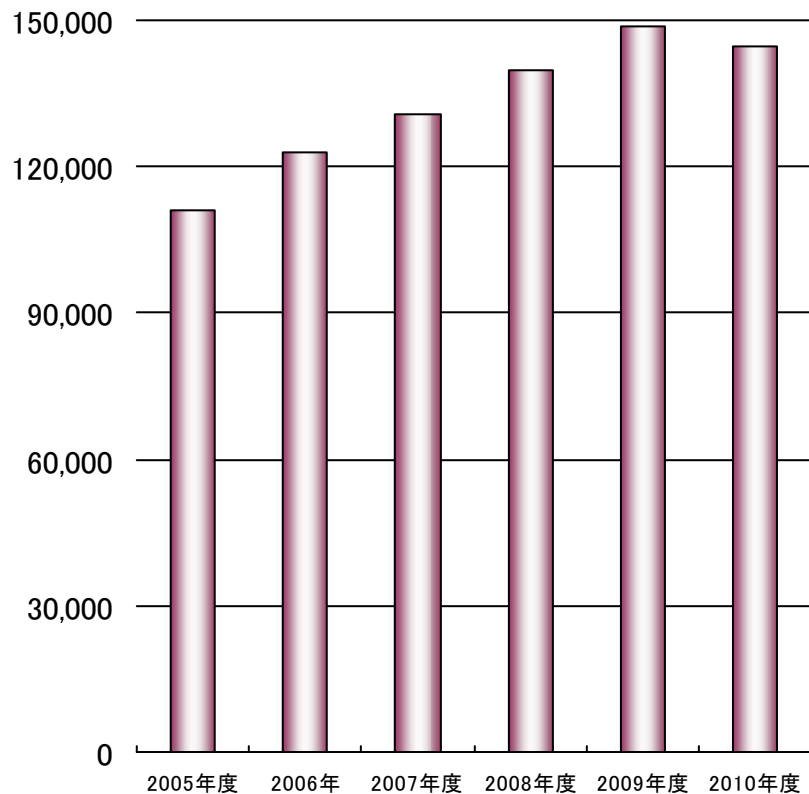
■太陽光発電と住宅販売

- 太陽光発電 第2四半期累計売上 21百万円
5月末受注残 32百万円
 - 住宅販売 第2四半期累計売上 36百万円(1棟)
5月末受注残 52百万円(2棟)
- ※ホームページを新設し、一般個人顧客の獲得を図る。



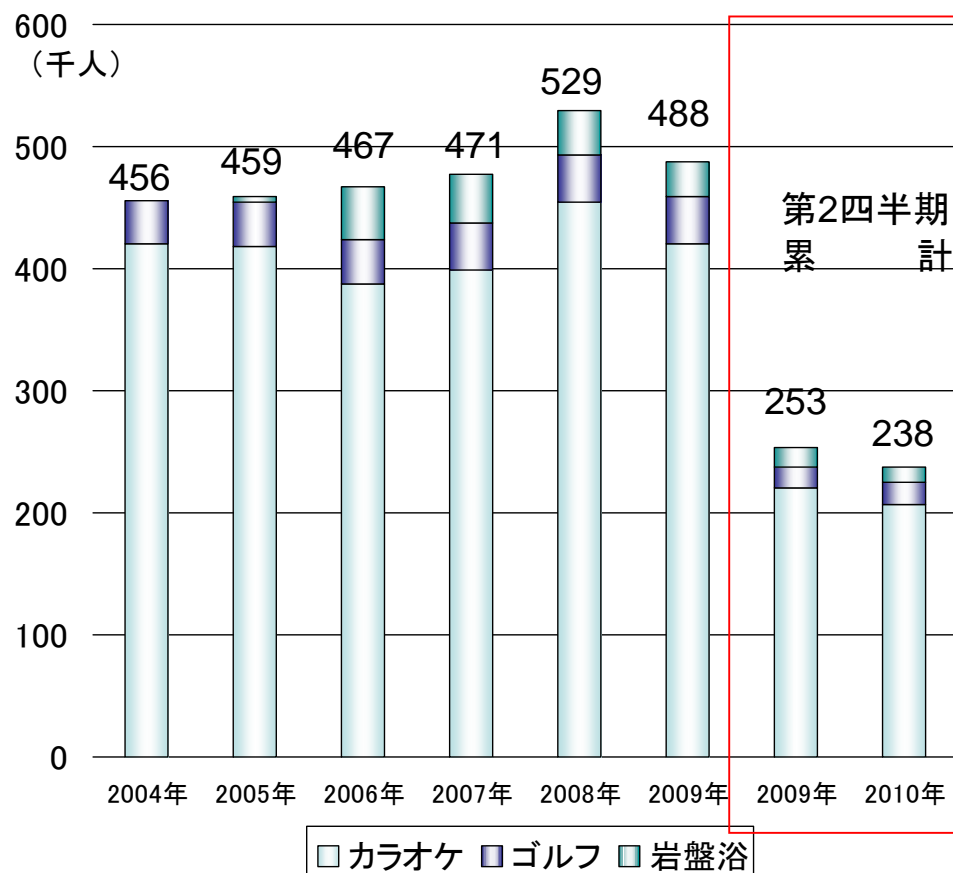
● アミューズメント事業の市場環境

■ カラオケ上場5社売上高推移 (百万円)



上場しているカラオケ5社(シダックス、第一興商、AOKIホールディングス、鉄人化計画、コシダカ)の決算短信をもとに、カラオケ事業の売上高の合計を掲載しております。なお、決算期が3月ではない2社につきましては、直近の四半期決算短信の通期予想を基に数値を作成しております。

■ 当社のアミューズメント事業の利用者数



- カラオケ大手チェーン店は、1社は大きく減収減益となったが、その他は横ばい又は微増。
- 当社は、個人の消費意欲の低迷により利用者数が減少。

● アミューズメント事業：取組みの進捗状況

■ 店長を中心に、社員教育を強化

- 店舗の柱となる店長の教育を強化。

毎月の店長会議において、業績アップセミナー、数字を読み解く力、目に付きにくい清掃箇所等の研修を実施

■ 既存店舗の収益力の向上

- 地域性に即したサービスや集客を行うための情報収集・情報伝達の強化

- 各店舗ごとの課題の細かな検討と対策の実施

二次会需要の減少 → 一次会用の食事つきプランの提供

若年層の獲得 → 次世代通信網を利用した最新カラオケ機器クロツソの導入

夜間利用客の減少 → 時間帯別勤務人員数の細かい調整



PART5

2010年10月期の業績予想

1. 連結業績予想(通期)

(単位:百万円)

	2009年 実績	百分比	2010年 予想	百分比	前期比
売上高	8,092	100.0%	10,375	100.0%	128.2%
売上総利益	84	1.0%	1,124	10.8%	1,327.4%
販売費及び一般管理費	1,237	15.3%	1,506	14.5%	121.8%
営業損失(△)	△1,152	—	△381	—	—
経常損失(△)	△1,295	—	△504	—	—
当期純損失(△)	△1,528	—	△508	—	—
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失(△)	△882.77円	—	△293.82円	—	—

- 競合製品の品薄感による出荷量の増加と製品価格の値上げにより、売上高は前期比で28.2%増加するものの原木価格が高止まりであることに加え、姫路工場の稼働率の上昇により増加する原木輸送を行うためのスポット船の用船料の高騰により原材料費が更にかさみ、利益を押し下げる見込み。
- 販売及び一般管理費の増加は、出荷量の増加による運賃の増加が主な要因

2. 予想配当

期末配当		配当性向
2009年 10月期	普通配当 30円	—
2010年 10月期	普通配当 30円	—

現在のところ普通配当30円継続の見込みであるが、状況により慎重に検討する。

●本資料お取扱上のご注意

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想並びに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。

●IR担当窓口



ORVIS

株式会社 オービス

企画室 梅田 孝史

Tel. 084-934-2621 (代)

Fax. 084-934-2624

E-mail: ir@orvis.co.jp

URL: <http://www.orvis.co.jp>